

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3171600236
法人名	医療法人社団 日翔会
事業所名	グループホームいちちょうの木
所在地	鳥取県日野郡日野町根雨899-1 (電話) 0859-72-1866
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1
訪問調査日	平成20年9月1日

【情報提供票より】 (20年 8月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 14年 12月 16日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤	13人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.81人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要 (8月 6日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	1	要介護 2	3
要介護 3	8	要介護 4	4
要介護 5	2	要支援 2	0
年齢	平均 81.8 歳	最低 67 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日野病院、山本歯科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間の静かな環境に立地するグループホームで、法人の理念である「住み慣れた地域の中での暮らし、地域との関係性の継続を大事にしていくこと」を基本に、家庭的でゆったりとした生活の中、利用者に寄り添いながら生活リズムを大切に安心できる暮らしの場を提供されているホームである。職員も明るく利用者の皆さんも明るくいきいきと暮らしておられたのが印象的であった。開設当初より、職員は理念に基づいたケアが実践できるように日々勉強会や自己評価を行ないサービスの質の向上に意欲的に取り組んであられる。平成19年4月より地域密着型の認知症対応デイサービスも開設され地域から頼られる存在となりつつある。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 前年度の評価結果を参考に主な改善点は改善できていた。運営推進会議を活かした取り組みに関しては、引き続き課題として取り組んでいただきたい。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 今回の自己評価については、全職員で取組ユニット責任者が取りまとめる方法で行われた。年に2回、法人独自の「こやまケア自己評価」「こやまケア外部評価」「360度評価」も行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 3ヶ月に1回開催されている。前回の検討事項等についての進捗状況や現状報告をしている。また、お互いに意見や要望を出して話し合っているが、具体策が見えにくい。町担当者、地域の代表者等に認知症の理解を深めていただき、今後の地域密着事業について話し合い、具体的な方向性を出して言ってもらいたい。施設側と地域包括センターのケアマネとの情報交換は行われているが、町の担当者と情報交換が不足しているように思える。今後より多くの情報交換の場を設けるためにも町担当者にも運営推進会議等への参加を呼びかけ、交流の場を増やしていただきたい。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 毎月の請求の折、「いちちょうの木便り」と利用者の様子を伝えるための手紙を送付している。また病院受診時には必ず結果報告をしている。連絡がつかない家族には了解を得てFAXをいれている。今後の家族会の発展についても検討中である。また、運営推進会議への家族代表2名の出席があり、意見はあがりやすくなっているが、あまり苦情、不満は言われない。
重点項目	④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 地域行事としての運動会や、夏まつり、根雨祭り、クリーン活動、町の文化祭出展等をしている。自治会の一員として地域の行事や祭りに率先して参加している。地域密着型サービスという観点からも、地域で見守る介護を目指し、より地域との交流を深めていただきたい。

2. 調 査 報 告 書

主任調査員氏名 _____ / 同行調査員氏名 _____

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日翔会の理念である「住み慣れた地域の中での暮らし、地域との関係性の継続を大事にしていくこと」を基本に、家庭的でゆったりとした生活の中利用者に寄り添いながら生活リズムを大切に安心できる暮らしの場を提供している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアの心得は施設内各所に掲載されており、日々のミーティング等で、理念に基づいたケアが実施できるよう職員間で常に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事としての運動会や、夏まつり、根雨祭り、クリーン活動、町の文化祭出展等をしている。自治会の一員として地域の行事や祭りに率先して参加している。		近所の子供が遊びに来てくれたことがあり、利用者の方たちが喜ばれたとのことである。運営推進会議を活用して子供会等にも働きかけてみられたらどうだろうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に2回、法人独自の「こやまケア自己評価」「こやまケア外部評価」「360度評価」を行ってサービスの質の向上に取り組んでいる。前年度の評価結果についても改善されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催されている。前回の検討事項等についての進捗状況や現状報告をしている。また、お互いに意見や要望を出して話し合っているが、具体策が見えにくい。	○	運営推進会議において、町役場の健康福祉課担当者、地域の代表者等に認知症の理解を深めていただき、今後の地域密着事業について話し合い、具体的な方向性を出して言ってもらいたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月「いちょうの木便り」を提供しているが、町からの情報提供は非常に少ない。地域福祉権利擁護事業の利用など困難事例の対応を役所と共に取り組んでいる。		施設側と地域包括センターのケアマネとの情報交換は行われているが、町の担当者と情報交換が不足しているように思える。今後より多くの情報交換の場を設けるためにも町担当者にも運営推進会議等への参加を呼びかけ、交流の場を増やしていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求の折、「いちょうの木便り」と利用者の様子を伝えるための手紙を送付している。また病院受診時には必ず結果報告をしている。連絡が付かない家族には了解を得てFAXをいれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱も設置しているが、面会時等に直接口頭で意見をいただくほうが多い。いただいた意見は反映させる仕組みも出来ている。今後の家族会の発展についても検討中である。		家族会については、利用者と家族の親睦会的なものでも現段階では良いかもしれない。その中からいろいろな意見が交わされる会に発展させて行くのも良いと思います。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限にとどめているが、離職ややむ終えない異動の場合は、職員間の申し送りを十分に行ない、利用者が不穏にならないよう配慮している。職員の異動は「いちょうの木便り」に掲載して家族にも報告している。所長としては、あと2名職員を増やしたいとの意向ももたれている。		地域性もあり、職員が集まらないとのことだが、日頃の活動が必要と思われる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた研修を法人内外で熱心に行なわれている。事業所内の勉強会は月1回、法人内の勉強会に月1回参加してスキルアップを図っている。グループの全国組織で行う研修にも参加し、マネジメント力を養うようにしている。		研修後の情報の共有をより一層図られる事を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互研修、法人内のグループホーム相互研修に参加し、事業所外の人の意見やケア方法を持ち帰り、ミーティングの中で何が出来るか話し合い良いと思うことや出来る事から始めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症デイサービスも行っており、現在2名が利用されている。デイサービス以外で入居希望の方は、本人や家族にまず施設見学していただき、場合によってはデイサービスから始められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の中で利用者が主役になれる場面作りを設定している。食事準備や、片付け・食器洗いなどそれぞれが得意分野で力を発揮し役割をこなしている場面が見うけられた。職員は、利用者の方から学ぶ姿勢を持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や、日常生活の中から本人の思いや意向を汲み取っている。ケアプランの見直しとは別に月1回のミーティングで話し合い検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いは日常生活の中から、家族の意見はアセスメントする時点で面会時や電話で要望を聞いている。利用者担当がモニタリング、全員で評価・カンファレンスを繰り返し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回アセスメントを行い、見直しを行っている。日常生活の状況や変化の兆しを見逃さず、時系列で詳細に記録できている。生活援助記録は利用者の訴え・行動とスタッフの対応・気づき・感じたことを記入するようになっており、見直し、修正が必要な時は適時介護計画見直しが行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診、入院の回避、早期退院の支援等されている。また入居者が、精神的に落ち着かれない時には気分転換としてデイサービス車に乗って一緒に送迎に行くなどの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を利用している。近隣に医療機関は多くないが、入居者の入所以前の関係が途絶えることなく継続して支援されている。急な場合は、同法人内の老健の看護師に来てもらえる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としては、入所の際に、最期は病院でと伝えている。原則としてターミナルケアはやらない方針である。		方針は方針として、一応話し合い、マニュアルの整備、研修等もしておかれた方が良いと思う。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員はさり気ない言葉かけ等で対応されている。プライバシーについては、ミーティング時や、日々の業務の中で気づいた時、その場で指導したり声をかけたりして改善している。入居者1人ひとりが尊厳ある姿で穏やかな暮らしができていると感じられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決めてあるが、一人ひとりに合わせた声かけを行い、本人が納得されたことを支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付け等自分の役割として台所に立っておられる。季節感のあるものをメニューに取り入れる工夫もされていた。皆さんが楽しそうに食事されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は隔日と決められているようだが、希望を聞いて提供されている。午後3時から7時ごろまで好きな時間に入浴出来るようになっている。拒否がある方にも、声かけをし提供できるようにされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、掃除、洗濯干し等その人の得意分野を引き出す場面作り、役割として取組んでおられた。年齢もあがり、要介護度もあがる中で、楽しみごと、気晴らしは個々に違ってはいるが、楽しそうに過ごされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候やその時の気分に応じて、買い物や散歩、ドライブ等は日常的に行なっている。誕生日には必ず本人が生きたいところへ出かける事ができるよう支援されている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない。外出をしそうな様子の方には、さり気なく一緒に外に出かけている。外出しそうなサインを見逃さず見守りや連係プレーで自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回、入居者を含めた総合訓練なども実施している。水害については対応はまだである。地域連携を密にし、緊急時の協力体制も築き上げようとされている。		寒さをしのげるような毛布などの準備も検討されることを望みます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量等はチェック表で管理されている。特に「水分補給メニュー表」を作成し、毎回希望を聞いて提供している。隣接する施設の栄養士に定期的にチェックしてもらっている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や、廊下の飾りつけは利用者と一緒に考えて作ったり、花や観葉植物を置いて家庭に近い空間を作れるよう工夫されている。食堂は明るく、和室もあり、昼寝場所として休んだり、お茶をゆっくり飲めるスペースになっている。不快な匂いはない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持って入居していただいている。自分の部屋として当たり前毎日掃除もされている。住み心地良い空間づくりがされていた。		

※  は、重点項目。